



消防団だより

第 15 号

発行
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地
電話(0545)55-2851
(0545)55-2852
FAX(0545)53-4633



東海地震発生の切迫性が強く指摘されてから、はや三十年近くなろうとしています。幸いにして大地震が起きることなく今日に至っていますが、決して危険が減少したわけではなく、いつ起きてもおかしくない、と言っているのが依然として多くの学者の一致した意見です。予想される東海巨大地震は阪神大震災の三十倍と言われ、考えられている地域も東海・東南海・南海と非常に広範囲にわたっています。事前に兆候を察知し、被害を最小にすべく、国家レベルの研究がされています。現在、静岡県内には三百八十箇所に上り、ひずみ計等が設置され、二十四時間監視体制がとられています。それが万全と、言うわけにはいきません。

いざ地震発生となれば我々消防団(員)の役割が重要になってきます。自身と身と家族の安全確保はもちろんですが、近隣住民被災者の救出・救助、避難誘

予想される東海・ 東南海巨大地震と消防団(員)

富士市消防団 副団長 山本 信英

導、初期消火、延焼防止、情報の収集等、冷静かつ積極的に活動しなければなりません。

消防団の良いところは、各地域各校区ごとに配置されていることです。防災に関する知識、経験を有していると同時に、地域の実情にも十分精通する消防団員が各所に配置されていることは、有事の際に必ず大きな力を発揮するはずで、他の防災組織と連携・協働しながら、消防団長の指揮命令のもと迅速な初期活動、小回りのきく、きめ細やかな対応が出来ると考えています。

地震発生時に個々の消防団員はどこにいるか、何をしておくか、あるいはあらかじめ地震に関する予知情報もあつたさかっているか否かによって対処方法は違ってくる。特に事前に予知され、警戒宣言が発令された場合には事前対応もでき、活動次第で被害の程度にかなりの差が出てくると思います。

予知に関する経験がないため、不十分な点は今後の課題として早急に取り組んでいきたいと思っています。

東海巨大地震は避けることは出来ません。しかしそれぞれの努力によって被害を最小限に抑えることは可能です。時を逃さずして起きる地震、とにもかくにも、備えあれば憂いなしです。古い古された言葉では有りますが、改めて肝に銘じ、消防団員としてより一層の研鑽を積み、日頃の訓練が万全の体制の下で十分生かされるよう団員一人ひとりが心掛けたいものです。



**安全・安心、守ります。
気分はまちのサポーター!**

消防団員募集

総務省消防庁・財団法人消防団センター
総務省消防庁・財団法人消防団センター
http://www.fdm.or.jp/

昔を振り返って

富士市まとい会長 鈴木 虎雄

江戸時代は江戸の火消し。
明治・大正時代は消防組
戦時中は警防団

戦後は消防団という名称に変わった。その消防団に入団。団員としての役目は、主に火災出場。その他には災害活動、訓練大会、正月の出初式などである。

火災出動では、昔は自転車で現場に向かい、寒さの中、手の凍る思いをした。岩本の大火災では、五、六時間という長い時間がかかり大変な思いをした。

災害活動では、狩野川台風の後の救助活動に向き、川に流された人々の救助活動をし、二人探し出すことができた。

訓練大会には、市・支部・県大会があり、県大会ポンプ車操法の部で優勝した。夜間の訓練の大変さも吹き飛ばすほどうれしかったことを思い出す。



たくさんさんの経験・体験を経て、本部隊員となり責任が重くなった。

県外の七ヶ所の都市に視察研修へ行ったが、改めて富士市の施設の立派さに驚くばかりだった。市民の皆様への防火に対する理解と協力には頭が下がった。在職中の平成元年には、富士市消防団に日本消防協会「特別表彰」といって授与され、消防団の最高の栄誉であった。

退団後は富士市まとい会及び富士總會の一員として正月の出初式・春の火災予防パレード・消防まつりに参加し、防災訓練では、地区ボランティアなど市の守りに力を入れている。

火の用心
地震・雷・火事・親父!!!



私の人生

消防団OB 長谷川 五郎

今の時代、若い人には想像出来ない事かも知れないが、私が育ち盛りの頃は戦争の激動期で、空襲でアメリカの爆撃機B29が上空を飛び交い、近くの東芝飛行場目がけての機関銃の音に怯え、恐ろしくて防空壕に逃げ込む日々でした。
学徒動員として、軍事工場などへ勤労奉仕の毎日で、勉強など皆無の状態でした。
終戦後は食糧はもちろん、衣類なども無い時代で、皆、ひもじい思いの生活で、今のように肥満の人など一人も居ませんでした。

学校卒業後、農家の五男として生れた私は、手に職をとの親の希望もあって、終戦直後、鋳型工として東京などで修業を十五年程行い、富士市に戻って独立、そして結婚。二人の子供とごく平凡な生活も出来るようになった折、知人に消防団員になることを勧められ、生れ育ちお世話になった地域へのお返しに、お役にたてたらとの思いから、昭和三十六年入団致しました。消防団員になり、大勢の人の出会いで、色々の事を学び教えられました。ポンプ車操法訓練指導員として、団員の方々は、深い絆で結ばれ、お互いに頑張つてまいりました。

平成八年退団迄は、副団長の大役を仰せつかりました。消防団員として関わった三十五年間の消防活動は、ボランティアとしての生きがいそのものの期間でした。平成十六年春の叙勲も賜わり、今更ながら「本当に消防団員になって良かった」との思いで、皆様には深く感謝しております。

今、予想される東海地震。今すぐ起きても不思議でないと言われて二十七年。皆の関心が薄れて来た感じがします。予想される死傷者も数万人とも言われ、消防団員の皆様には、市民の意識の向上や、地域のリーダーとしての活躍を期待しております。私も退団後は、微力ながら浮島工業団地の防災委員として、自主防災組織作りに頑張っております。消防団員の皆様には、健康に留意されてご活躍されますようお願い致します。

指導部長に就いて

団本部分団長 中村 健司

平成十六年四月二日よりポンプ車操法指導員を退任し、新たに富士市消防団指導部長という大任を引き受ける事となりました。

何分にも初めて出来た役職で、零からの出発です。分らない事ばかりで、正副団長、方面隊長達と相談しながら任務遂行に努力しております。

昭和五十九年より、指導員を受け平成十年県指導員となり、六年間静岡県

訓練大会(ポンプ車操法の部)について

第五分団 班長 久能 喜輝

平成十六年十月十七日、富士市の公設地方卸売市場において訓練大会が行われました。

入団して十四年目、班長になった最初の大きな仕事としてポンプ車操法の指揮者という大任を頂きました。当初は「方面隊の代表として出場するからにはみつももならないように。」が私たちが要員の合言葉でしたが、練習を重ねていくうちに、いつしかそれが「もつとタイムを縮められないか。」に変わっていったのは自然の流れかもしれません。

大会当日の一ヶ月前には公設地方卸売市場にて、本番さながらの練習が始まります。それでは間に合わないからと、水を出さないカラ操法で何度も五

消防学校にて十一支部の指導員の方々と、積極的に意見交換しポンプ車の水出し操法を習得して来ました。そんな中で、人との接し方、指導の難しさを身をもって体験して来ました。長い間の指導員としての経験を生かし、今後の訓練指導に役立てていこうと考えています。

今年富士支部・静岡県の訓練大会も計画されており、大変忙しい年となります。訓練日程の作成、訓練方法等については、従来とは違った観点からポンプ車、小型、規律の訓練を行うと同時に、各部門の指導員の皆様と相談検討し、各出場隊が切磋琢磨し技術、意識の高揚ができ、盛大に訓練大会が

分団副団長の工場をお借りして真夏に汗だくで練習しました。その都度、練習場所を用意して下さった副団長には頭が下がる思いです。また、水出しの練習をしたいと言えば分団長が機材を用意してくださり、それを自分の車で田子の浦まで運び、練習の環境を作っていただきました。そしてそれを手伝う要員以外の分団員、練習の度に応援に来てくださる第五方面隊の分団長の方々が、操法の大会に出場するという事は要員が出場するだけでなく、こうした方々の支えがあつて成り立つものだと思つて実感いたしました。そして何より感謝しているのは、何も分からない私たち要員に「から教えてください」と指導員の皆様です。一つの動作を教わるとその前に教わった事を忘れてしまうという不器用な私たち要員でしたが、いやな顔もせず何度も同じ事を懇切丁寧に要員一人ずつ付けて教えていただきました。公設地方卸売



開催出来るよう努力したいと思っております。新入団員教育、機関員教育、訓練大会、地震対策等の訓練計画の指導を行い、有事の際には消防団員が迅速かつ適切な行動が出来るようにと考えています。今後とも宜しくお願いします。



市場での合同練習が始まる以前から、私たち要員の為だけに自分の時間を割いて教えるに来ていただいた指導員の方々には感謝の念でいっぱいです。

新分団長の抱負

新分団長の抱負

第三分団 分団長 加藤 良孝



昭和五十六年、第三分団日吉詰所消滅の危機の中、分団長の必要な誘いを受けての入団であった。
以来、大型ポンプ操法、礼式要員として十数年に渡り、大会に出場、平素の火災出場については百回を有に越え、

団員として多忙を極め、充実した歳月であった。
第三分団は、上中、日吉に詰所及びポンプ車が配備され、伝法、吉原地区の一部を含む広範囲をカバーする分団であり、分団長就任にあたり、その責任の重さを痛感しています。

新入団時五十五名の団員を有し、各種大会では常に他の分団を圧倒する勢いであったが、現団員数は三十二名と激減し、実質二個分団の運営にあたり団員不足の感は否めない。

分団長に就くにあたり、今年度三分団の目標方針を団員増員補強に置いた。すでに副分団長の時、団員募集を管轄町内会に提案し、町内会と三分団によ

る防災連絡会を立ち上げ、二十三町内の自主防災会と分団の間で種々の意見交換がなされた。
その次に団員募集について

一、団員不在の町内会には必ず一名の団員を確保
一、団員在籍だが、大規模町内会には団員の増員を

一、小規模町内会には生涯学習推進会員を決める様に在職年数期限付で団員を選出等々の提案をした。
団員輩出については難色を示す町内会が多数であり、団員の確保について難しさを思い知らされた。

一方、防災については想像していた以上に消防団に多大な期待を持っている様だった。
今後、分団と住民との交流の機会を重ねることにより、信頼を得る分団へ団員一致して推して行くこととした。

又、大災害に備える防災技術、意識への向上を再認識し、今後の歩みとしたい。

れております。

団員はサラリーマンが多く(交替勤務も数名あります)、自営者等で構成され、団員数は三十六名です。

昨年、今年と二名ずつの若い団員が入団してくれましたが、団員増には至っておりません。

元吉原地区は、高齢化、過疎化が進み、新入団員の確保がなかなか難しい状況ではありますが、団員確保を積極的

に働きかけ、団員増を目指していきたいと思っております。
地域の皆様に親しまれる消防団、地域と密着した消防団を心掛けております。
より一層親しみを持っていたいただくと



新分団長の抱負

第十分団 分団長 掛橋 菊雄

我、十分団は、南に駿河湾が広がり、東は東田子ノ浦駅、西は吉原駅に至り東西に細長い地域を受け持っております。消防車輛二台、今井と柏原に配置さ

新分団長の抱負

第十七分団 分団長 深澤 英男



消防団が、地域から期待される役割は、火災発生時の消火活動を始めとして、地区行事の警備、イベントへの参加、学校のふれあい活動の出席など色々な活動があります。

我、十七分団においては、災害にスムーズに対応出来る様にと、毎月二回のポンプ点検日には、放水訓練を行っており「習うより、慣れる!」と、「いかに迅速に、かつ正確に」と努力を重ねております。

又、地区の自主防災会と合同で、指導及び訓練を行っております。この交流によって、地域の皆様ともコミュニケーションが図れ、東海地震等災害に対し、自分の地域は自分で守るという気持ちを持ち、持てるようになって来たのではないかと思います。

そのような活動を通じ、団員同士の一層の結束と明るい雰囲気を保っていききたいと思っております。

そして若い団員の斬新で前向きな意見を採り入れつつ、伝統の奉仕の精神を守り、健康第一に気を付け、活気あふれる活動を進めていきます。

二十分団に新鋭ポンプ配備

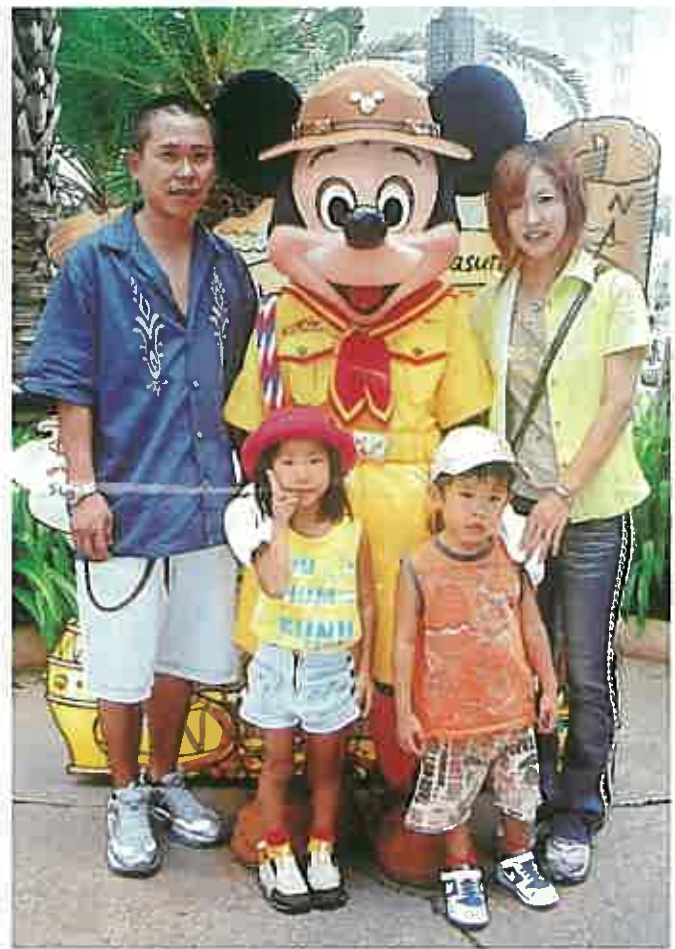
第二十分団 副分団長 土屋 仁

岩本・松岡・鷹岡西部区域の広範囲を担当している第二十分団の消防ポンプ車輛の老朽化に伴い更新され、十二月九日に消防庁舎前で市長・市議会議長をはじめ消防関係者多数が出席して納車・引渡し式が行われました。

二十年前ぶりに配備されたポンプ車は総排気量四千七百七十七ccの八人乗りオートマチック車で環境にも優しい排ガス対応車となり、ポンプ能力は一分間最大二千リットルの送水が可能な高性能仕様となっております。

望月克巳分団長と共に私達団員は、「新たな決意で地域住民の期待にこたえられるよう一層の努力をしていきたい」と思っています。





家族慰安旅行に参加して

第二十六分団 家族 井上 美賀

あまり遠出をしない私達家族にとってデイズニーシーへ行った事は、子供達にとっても夏休み最大のイベントとなり、かけがえのない夏休みの思い出となった事でしょう。

出発が早朝だったにもかかわらず、子供達は大はしゃぎで大興奮でした。幼稚園の息子でも乗れる乗物がたくさんあったので、家族で楽しさを共有する事が出来ました。ジェットコースター系スリルのある乗物にまだ乗った事がなかったので、恐さ半分期待半分で待っている間、緊張していましたが、降りて来た時は興奮冷めやらぬといった感じで、初めての体験に大満足していました。いろいろな場所へ行ってシールを貼ってもらったデイズニーマップに夢中になり、何周もシーの中をぐるぐる周り、たくさんのお見せをしたり、普段行かないような場所を知ったりと、デイズニーシーを制覇した気分になりました。



た。おみやげを選ぶのもやつとなくらい疲れてしまい、思い切り遊び楽しんだ一日になりました。

普段、消防団の家族の方々に会う機会が少ないので家族慰安で一緒に旅行に行く事が出来、良かったです。ありがとうございます。最後に子供が一言、言った言葉「またパパの消防でデイズニーシーに連れて行ってもらうね。」でした。



家族慰安会について

第十九分団 団員 鍋田 勝樹

雲ひとつない空が広がり、旅行には最高の天気です。今回、私たちは家族



四人で参加させていただきました。共働きでなかなか遊びに連れて行けなかったのが、子供たちは大喜びです。今回のようなプール・遊園地・アウトレット等の複合施設は初めてだったので、とても楽しみにしていました。

当日は朝早く起きたので、バスでくずるかと思いましたが、小学校や幼稚園の友達と仲良く話をしたり遊んだりして退屈はしなかったようです。

到着すると、子供たちは他の施設には目もくれず、水着に着替え、浮き輪をもち楽しみにしていたプールに直行しました。市民プールでは味わえない景色、プールの広さと大きな波の出るプールでは、歓声を上げながら波打ち際を行ったり来たり。流れるプールではプールの一部が建物の中を通り、そこではショーをやっていたので、何周もぐるぐる回りいつまでも出ることもなく遊び、唇の色が変わるまで遊んでいました。

長い時間プールで遊んだため時間が足りず、アウトレットや遊園地はいけませんでしたが、とっても楽しい旅行になりました。



家族慰安会について

第十一分団 家族 遠藤 栄子

家族そろって観光バスに乗り、観光地へ遊びに行ったのはとても久しぶりで、私も子供たちもとても楽しみにしていました。久々の遠足気分でした。

主人がお世話になっている団員の方々や、ご家族と顔を合わせることができ、いろいろお話をさせて頂いた中で、私自身、まだまだ未熟・・・いろいろなことががんばろう！と思いました。

サイクルスポーツセンターでは、子供たちと自転車に乗ったり、遊具に乗ったり、自然の中で思いっきり楽しませました。少しだけ、のんびりした時間もあって、よい一日を過ごさせて頂いたと思います。

機会があれば、また家族そろって参加させて頂きたいと思っております。

家族慰安会

第二十四分団 家族

(小五) 掛井 宏文

八月八日に、富士山こどもの国に第六方面隊のみんなで行きました。はじめ「第六方面隊」が何のことかわかりませんでした。でも、二十一分団、二十二分団、二十三分団、二十四分団の四つの分団で第六方面隊だとわかりました。

そのみんなでこどもの国でパーベキューをしました。こどもの国の近くになると少し雨が降ってきたのでパーベキューができるか心配になりました。着いて荷物をリヤカーで運びました。まだ雨が降っていたのでテントをおじさん達が張ってくれました。パーベキューの準備をしてくれている間、お姉さんやお兄さんがバトミントンを一緒にやってくれてとても楽しかったです。パーベキューが始まるころには雨はやんで良い天気になりました。僕はお肉と野菜



思い出に残る家族慰安会

第七分団 家族

(小五) 今春 瑞希

菜を食べてお腹いっぱいになりました。パーベキューをやり終えると、お父さんやお兄さん達と馬に乗りました。馬に乗った事がないので、緊張しました。馬は左右にゆれて少しこわかったです。

テントにもどつてみるとみんなビンゴゲームをやっていました。お姉ちゃんからカードをもらいゲームをやっていたらそのうちビンゴになりました。当たったのはクーラーバックでした。

かたづけが終わってから二十四分団だけでボーリングへ行きました。何回かやったことがあるので良いスコアが取れてうれしかったです。その後食べた天丼や、そばもおいしかったです。

楽しい一日でした。また行けるといいです。

わたしは、八月一日に消防の旅行で、長野県にある白樺リゾート・池野平ホテルに行きました。初めての場所でテレビのコマーシャルでもやっているところだったので、ワクワクドキドキで前日はちよつと寝不足だったかな。バスに乗って さあ、出発です。バスのなかでは、さっそくお菓子とジュースが配られ、大人には、お酒とつまみが出て、カラオケを歌ったり、なかにはじょうだんを言っている人もいて楽しそう。バスは目的地に向かって行きました。ようやく白樺湖が見えてきました。ホテルに到着です。お昼は楽しみにしていた世界のバイキング。「やったあーいっばい食べよう」と思ったのですが

お客さんがたくさんいて行列でなかなか食べることができずビックリ！お肉があまりなかったのわたしはふだん食べれないカニをたくさん食べました。おいしかったです。おなかもいっぱいになり遊園地へと向かいました。わたしは動物が好きなのでワンニャン村という所に行きました。犬や猫たちがいっぱい動物たちにお昼ごはんをあげました。時間がなく乗り物はあきらめてホテルまで戻りました。

帰りには友達におみやげを買いました。予定どおり無事に帰ってきました。みんないい人ばかりで、お父さんもこういう中でボランティア活動をしていると思うと「いいなあー」と思いました。中学のおねえちゃんもジュニアリーダーという所でボランティアでがんばっているの、わたしもがんばろうと思いました。

お父さんは仕事と消防でいそがしく、いっしょに遊べる日が少なかったのでも楽しかったです。ありがとうございました。



家族慰安旅行

第二十五分団 家族

井出 とみ子

七月十八日、第一方面隊家族慰安旅行「富士急ハイランド」に行っていました。

富士急ハイランドは以前訪れた時よりも変わっており、迫力ある乗り物も多く、園内は家族連れや若者で賑わっていました。

私は夫と二人での参加でしたので若い団員のグループに入れて頂き、おばけ屋敷に入ったり、観覧車や海賊船と一緒に乗ってもらい楽しめました。恐怖のジェットコースターにも挑戦したいと思いましたが彼達が誘ってくれず残念でした。私の身を案じてくれたのでしようね。

帰りには夕食の宴を用意して下さい甲州名物のほうとう、釜飯を大変おいしく頂きました。

訓練大会の練習のお忙しい時にも関わらず、この様な楽しい家族慰安旅行を計画して下さいありがとうございます。旅行に参加させて頂き、団員の皆様や御家族の方々と楽しい一日を過ごし、親睦と友好を深める事ができ、感謝の気持ち一杯です。幹事の皆様御苦勞様でした。

今後も家族一同で消防団活動に一生懸命頑張っている夫を暖かく見守り、支援して行きたいと思っています。

最後になりましたが、富士市消防団の発展と御活躍を心からお祈り致します。



新入団員教育を終えて

第六分団 団員 原田 繁

五月二十三日、富士市の公設地方卸市場にて小雨の降る中、新入団員教育を受講しました。

四月より分団の訓練に参加した私は、部隊訓練を一度見たあと、先輩団員方から「見ているより一緒に入ったらその方が早く覚えるよ！」と声を掛けられ、共に部隊訓練をさせていただきました。心の中では良くわからない状態で団体行動をとっても、足を引っ張るだけなのに、そんなに急いで覚えなくても・・・と思いましたが訓練の後、五月の新入団員教育の話しを聞き、少しでも覚えておけば気楽に教育を受けられるとその日から訓練の後、渡辺指導員に十分間の各訓練を指導して頂きました。その甲斐あって自信を持って新入団員教育を受けることが出来ました。緊張によりうまく体が動きませんでした。いくつか出来なかったこととさらに細かなご指導を頂き、諸先輩方と共に礼式訓練を行うにあたり自信を持つことが出来ました。

新入団員教育当日は小雨の中、訓示心構え、消防団の概要、団員の処遇について講義を受け、各個部隊訓練が始まりました。「どこでやるのだろうか」と新入団員がきよきよする中、「集まれ！」の声、見ると指導員方は全員小雨の中で新入団員は軒先に入る位置でした。僕はテンションが沸々と揚がるのを実感しました。僕の予想では、全員が雨の中又は建て屋の中、それが指導員のみ雨の中すこいな！と思いましたが、訓練が終わって、ポンプ車、小型ポンプ操作へと変わりました。あまりの

速さに細かな動きは全くわからず、一つ一つの動作がピシッとしている印象が大きな感動と共に残りました。朝からテンションが揚がったままで疲れた一日でしたが、この新入団員教育を受け消防活動に対する熱いハートが芽生えたようです。人を思いやる六分団の先輩団員方、自ら雨の中に立つ指導員の姿を見て、消防団活動のボランティア精神のひとつを見たような気がします。この活動を通じ、自己の成長と共に、早く地域に貢献できるように日々の訓練行事に参加し頑張っていきたいと思えます。

新入団員教育を終えて

第十五分団 団員 浅岡 嘉孝

五月二十三日、公設地方卸売市場で新入団員教育が行われました。

初めての行事参加であり、期待と不安が入り混じった心境での参加でありました。

消防団長の挨拶と訓示、その後、団



員としての責任と心構え、消防団の概要などについて講義を受けました。

消防団の立場と役割、又、過去の厳しい消火活動のお話もあり、消防団員としての誇りと使命感の存在を強く感じました。

その後、屋外にて訓練礼式、およびポンプ車、小型ポンプ操作を指導員のご指導のもと行いました。

訓練礼式では、様々な隊形、機敏な動作、手足の角度、タイミングなど、非常に細やかな指導をして頂き、整然とした一人前の動作を身につけるためには、繰り返し大変な訓練と努力が必要であることを痛感させられました。

満足な動作を行うことは容易なことではなく、先輩方がすんなりとこなされている姿に大変敬服しました。

小型ポンプにおいては、各部名称から取り扱い方、ホース巻伸ばしから放水姿勢まで、簡易的な体験もさせて頂き、どのように実際の消火活動に当たるのか、大変参考になりました。さらに訓練大会の模範演技を見学させていただきました。機敏で正確な動きにも敬服しました。現場での活動において規律と

チームワークを重要視している、まさにそれを表しているものであると感じました。

今回の教育受講で、消防団について様々なことを知ることができ、大変勉強になったと思います。

これから覚えるべきことが多々あると思いますので、分団の先輩方にもご指導いただきながら、いざというときに慌てず速やかに行動でき、地域に貢献できる消防団員になれる様、努力していきたいと思えます。

新入団員教育

第二十三分団 団員 小林 真也

平成十四年十一月、知り合いの消防団員に勧められ、第二十三分団に入団しました。入団した当時は、右も左も解らず周りの人の動きを見て、見よう見まねで、みんなに合わせていました。本来は、十五年の新入団員教育に参加する予定だったので、都合がつかず、入団してから二年目にして新入団員の教育に参加しました。

新入団員教育とは、いったいどんな事をするのだろうかと不安を抱きながら五月二十三日、小雨の降る中、団員二名と車を公設地方卸売市場へ走らせました。

まずは、消防団長の挨拶から始まり、消防団員の心構え等、講義を受けました。十時すぎからは、屋外にて各個訓練、部隊訓練を指導員の方々から学びました。細かい決まり事が多数あり大変勉強になりました。

午後からは小型ポンプ、ポンプ車の各部分の取り扱いや、ホースの伸ばし方、巻き方、運び方について教えていただきました。あつという間に過ぎた



一日でした。今日一日、学んだ事は、今後、消防団活動に生かして行きたいと思えます。

自分自身の実際の火災現場での消火活動をした事はありませんが、いざという時に、あわてずに、消火活動が出来る様、日々の訓練には必ず出席したいと思います。





消防団のお父さんが

学校に来た

第九分団 家族

(小四) 加藤 周作

ぼくのお父さんの仕事は大工です。いつもくたくたになって仕事から帰って来ます。夕食をすませてから、必ず家の点検をして消防の訓練に出かけます。須津地区にある第九分団に入っているからです。訓練を終えたお父さんはさらにくたくたになって家に帰ってきます。

「一日の仕事を終えての消防の訓練はたいへんだらうな。」

ぼくはいつもそう思っています。でも、お父さんは消防の活動にほこりを持っていて活動しているのだと思います。

学校の社会の勉強で、学校の消防しつを調べたら、とてもたくさん消

火器や消火せんや熱感知器があることを知りまし。同じクラスの友達のお父さんで消防士さんがいるので、学校に来てお話をしてくださいました。

十月十八日には、お父さんが入っている富士市消防団第九分団のみなさんが須津小に来てくれました。はじめに見せてくれた放水の訓練では、きびきびと動いているお父さんがいさましく見えました。家ではごろごろしているお父さんですが、みんなの質問にも、

はつきりした声でこたえているお父さんでした。

四年生のみなは、ホースを持って放水体験をしたり、消防車に乗せてもらったりしました。消防車の前でお父さんと記念写真を撮りました。ちょっととれくさかったけれど、いさまいお父さんといっしょでうれしかったです。

ぼくも大きくなったらお父さんのように、分団に入って須津地区のために働きたいと思います。



消防まつり

第二十二分団 団員 齋木 広美

毎年恒例となった富士市消防まつり、朝七時からの会場準備、そして自分達分団のテント張り、販売物の仕度など朝早くから大忙し。今年の自分達二十二分団は、焼き鳥、おでん、かき氷、朝から肌寒い曇り空、一つの不安が頭をよぎった。

「こんな寒い日にかき氷なんて売れるのかな？」

そんな不安も開会から一時間位過ぎた頃から一人二人とかき氷を買いに来

てくれる人が来始めた。その後少しの晴れ間が見え始めた頃から、いつの間にか長い人の列。たまたまかき氷担当をしていた自分は、あまりの忙しさに少しパニック！そのおかげで、かき氷のカップ、ストローが無くなってしま

僕たちの消防まつり

第十八分団 団員 望月 照泰

でした。また小さな子供達が嬉しそうにかき氷をほおぼる姿は、本当に心なませるひと時でした。しかし一つ問題点も見つけてしまいました。市庁舎のトイレへ行つた時の事。トイレの入り口が大渋滞、その長い列の中で一人の男の子が、我慢できないうらしくシクシク泣いていました。こんな大勢の人が集まる場所にこの数のトイレでは、少し少なすぎるのではないかと。自分と同じ考えの人は少なからずいると思います。できる事ならば市庁舎二階のトイレとか野外へ仮設トイレを設けるなど、この点はなんとかしてほしいなと思いました。

今年も色々あった消防関係者と市民のふれ合い「富士市消防まつり」が無事に終わって本当よかったです。来年も今年以上の賑わいを見せられるよう、また末長く富士市消防まつりが開催されるよう、一消防団員として日々の消防団活動と共に頑張つて行きたいと思ひます。

消防まつりの前週、連絡網が回り、詰所に団員が集まりました。(さあ、まつりの準備をするぞ!)と、声がかかり大きな画用紙や絵の具が用意されました。今まで十八分団の消防まつりというと、殺風景で女性の手伝いもなく、ほかの分団に比べると非常に寂しいものでした。ところが今年からはみんな準備をしようというのです。正直あまり乗り気ではありませんでした。しかし団員の奥さんが見本絵を準備してくれていました。それならがんばろう!と思ったときに誰か画用紙に下絵を書くか悩みました。なにしろ始めて



のことでした。すると下絵係りには団員の娘さん、その友達と大勢の人達が集まり、協力し完成させることができました。いざ消防まつりの日、みんなで作った垂れ幕をテントに張ると、今までの消防まつりでは味わったことのない感情がこみ上げてきました。まつりが始まると団員の家族達や分団長の奥さんまでもが応援に駆けつけてくださいました。お陰様で全品完売となり、我が十八分団は大盛況でした。

私は、この文を作成するにあたって消防まつりの目的や主旨は何だろうか?なぜ消防まつりを行うんだらう?と考えていました。ただ十八分団が今年新たなアクションを起し、変わったことや、団員や団員の家族、大勢の人達が協力してくださったことに感謝しています。本当にすばらしい消防まつりでした。準備は大変ですけどまた来年もみんなががんばりましょう。



おのちのちへーんこ

第二分団 班長 原 睦夫

過日、新聞の読書投稿欄に消防団活動における参加行事の多さに苦情や、その地域においては任期五年という退職消防団員からの記事が寄せられており、その中の一に消防団員の不足発生原因として、訓練大会の為の練習の多さとその意義についての苦情があげられておりました。

地域に依り、又分団に依り、その練習量の差には大きいものがある事と推察されますが、しかしながら、この練習こそが、消防団活動の中で機敏且つ沈着冷静に行動する為の基本練習ではないかと思われ、消防団員からこの各操作や訓練礼式が無くなってしまったらどの様な消防団員になるか推して知るべしと思います。

消防団員には消防団員としての存在意義があると思われ、自分自身の資質向上の為に何が出来るか、考察するところ、私自身、一ラッパ隊員として技能向上に努力することに感じ、私のモチベーションもこれにあるのではないかと思えます。換言すれば消防団活動におけるラッパ隊活動がアイデンティティーとして存在しているのであります。

先日、自衛隊のラッパ隊を見学して来ましたが、規律、演奏においても私共では足元にも及びませんが、目指す目標が出来たことは、大きな収穫であり、益々の練習の必要性を感じた次第です。



お祭りと消防団

第二十五分団副分団長 青柳 唯一

第二十五分団の管轄区域は、広見町と青葉台の一部と石坂です。昔からの

町でなく、新興住宅地的要素の強い町です。どちらかというと、昔かたぎの強い消防団活動が、この地域に溶け込むにはどうしたらいいものか。何年も前から夜警の時、コタツに入りながら語り明かしたものです。地区の文化祭とか、桜まつりに数年前から参加しはじめたものの、いまいちインパクトがない。

そこで、広見の夏祭りに本格的な神輿を作って参加しようと、コタツの上でまとまった。幸いにして団員の中に大工さんがおり、少ない予算で制作に取り掛って、この春、無事完成した。消防団の本当の御神輿はポンプ車だと思ふ。あの赤い車に向っての気持ちがいひとつになる。ポンプ車を担ぐ訳に出来ないから御神輿を作った。

無信心の団員が多いのだが神事をしたくなり、梅雨の六月に神主と団員全員出席の中で御払いをした。

七月三十一日、広見祭りの子供御神輿を先頭に、第二十五分団の大人の御神輿で練り歩いた。紅白の締め縄できりつと化粧した御神輿。ハッピ姿にねじりはちまき、消防作業ズボンがよく似合った。周りにいた子供たちは、団員の威勢に目を見張り、一人二人と若い衆が担ぎ手に加わり、男女あわせて二十数名になった。初参加で初めは静かだったが、終わりの頃は舞台上でワンマンショー。

広見祭りの最後を飾る花火大会。消防車で警備についた時、団員の熱い心が花火になって、「ドドン」と夜空に開いているように見えた。



火災期特別警備について

第十四分団 班長 井出 英章

十二月二十日から始まった火災期特別警備(夜警)は、二月二十日までの二ヶ月間実施されました。

私達十四分団は班長以上一名、団員一名の二名一組で行います。

午後八時よりポンプ車での管轄町内の巡回警備を行います。その後、詰所待機です。自分が入団してからの夜警期間中には、何回か火災出場がありました。

仕事が終わってからの夜警は、大変と思うこともありますが、乾燥した日が続くこの時期には火災が起こりやすく、テレビ、新聞等で火災報道がされます。

自分も、何もかもが無くなってしまった悲惨な火災現場を見たいです。

このような火災が起こらないよう、地域住民の生命財産を守るためにも微力ではありますが、消防団員の一人として、これからの夜警及び消防団活動を頑張っていきたいとおもいます。



編集後記

「消防団だより」を発行するにあたり、団員皆様又、ご家族の皆様より多数の原稿をお寄せいただき厚くお礼申し上げます。

皆様の原稿を掲載するにあたり拝読しまして、消防活動に対する切実且つ熱心な姿勢、家族の皆様への心温まる気持ちも伝わってきました。又、今回は、消防OBの皆様からの原稿もいただくことが出来たことに大変感謝を致しております。

今年度は、四年に一度の方面隊家族慰安旅行が開催され、多種多様な催しが執り行われましたので、団員家族が楽しく過ごした一日を掲載致しました。

「消防団だより」が団員の意識の高揚と団結心が養われることを祈念すると共に、市民の皆様へ消防団活動を少しでも理解して頂き、予防消防の手助けになれば幸いです。

今後皆様様に親しまれる紙面作り而努力して参りますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

富士市消防団広報紙編集委員

委員長 第六方面隊長 勝 又啓治

副委員長 第二分団 副分団長 長尾 文彦

委員 第二十五分団 班長 片平 保夫

委員 第十分団 部長 鈴木 貴之

委員 第十三分団 班長 千葉 和男

委員 第十八分団 班長 保田 訓

委員 第二十二分団 団員 矢川 仁美